

# 佐賀県の防災上の課題

## 課題①： 災害が少ない（？）県

面積・人口が小さい（九州の5%）ため、大規模災害の発生頻度は低い  
⇒ ハザード（大規模浸水、地震、原発）に対し、リスクに応じた備え（特に人の育成）ができているか？

## 課題②： 大規模浸水時の状況把握

可住地の1／3は干拓地（干満差6m）であり、広範、長期の浸水が宿命  
⇒ 浸水状況や救助、支援の重点をいかに把握するか？

## 課題③： その情報は何のために？

情報は、計画的に集め、分析（加工）し、判断・決心に生かしているか？

# 対策と懸案事項

## 課題①：災害が少ない（？）県

### これまでの対策

- 治水（排水）対策に重点（江戸期～）
- 図上訓練  
佐賀平野北縁断層帯地震、原子力災害の想定で、各1回／年実施
- 他県での災害に対する応援  
東日本大震災や熊本地震時に行政支援職員を派遣
- 自主防災組織の育成、消防団員の確保対策等

### 懸案事項

- 実践的なマニュアルの作成、庁内動員体制の確立
- 市町と協（共）同での図上訓練
- 地震に対応した物資備蓄
- （南トラウ時の連携に関しては）原発警戒のため一步目に遅れ

# 対策と懸案事項

## 課題②：大規模浸水時の状況把握

### これまでの対策

- GISの導入
- 県庁危機管理センターの改装
- 災害時、市町本部へ情報連絡員を派遣
- 水位計、CCTVの増設
- 防災へりの導入（準備中）

### **懸案事項**

- 人が集めて、システム入力して、共有するやり方から  
⇒ さらなる無人化、自動化を追求する必要  
(昨年8月の前線による大雨の際は、浸水や土砂災害の状況、救助ニーズ(被害の重点)が、なかなか掴めなかった)

## 対策と懸案事項

### 課題③：その情報は何のために？

#### これまでの対策

○災害対策要員の教育、研修、訓練

#### 懸案事項

- 基本的な情報活動のサイクル（計画→要求→収集→整理→分析→配布→判断）について全員に理解させるとともに、スペシャリストも育てる必要

